

医師の意見書

意見書

片岡の里第2こども園 殿

園児名 _____

病名 _____

令和 年 月 日から症状も回復し、
集団生活に支障がない状態となったので、登園可能と判断します。

令和 年 月 日

医療機関名 _____

医師名 _____ 印又はサイン

こども園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、子ども達が一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの症状の回復状態が集団での園生活が可能な状態となってからの登園であるようご配慮下さい。

病名	感染しやすい期間	登園の目安
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しん出現の1～2日前から痂痂形成まで	全ての発しんが痂痂化してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発症3日前から耳下腺腫張後4日	耳下腺の腫張が消失してから
結核		感染の恐れがなくなってから
アデノウイルス (咽頭結膜熱・プール熱含む)	発熱・充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血・目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること。(抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う)
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの。

保護者の登園届

登園届

片岡の里第2こども園 殿

園児名 _____

病名 _____と診断され、令和 年 月 日から
医療機関名 _____において症状も回復し、
集団生活に支障がない状態と診断されましたので登園いたします。

令和 年 月 日

保護者名 _____ 印又はサイン

こども園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、子ども達が一日快適に生活できるよう、園児がよくかかる下記の感染症につきまして、登園の目安を参考に、かかりつけ医師の診断に従い、登園届の提出をお願い致します。子ども達の回復状態が園での集団生活に適応できる状態に回復してからの登園であるようにご配慮ください。

病名	感染しやすい期間	登園の目安
麻疹(はしか)	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
新型コロナウイルス感染症	発症2日前から発症後7～10日間程度	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発生した数日間	発熱や口腔内に水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(リンゴ病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
感染性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事が摂れること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間 (便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	発熱や口腔内に水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること
RSウイルス	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水泡を形成している間	すべての発しんが痂痂化してから
突発性発疹		解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと
ヒトメタニューモウイルス	呼吸器症状のある間	呼吸器症状消失後